

献 辞

人間文化学部長 小 川 賢 治
人間文化学会長

本年、人間文化学部は定年退職規程によりお二人の先生をお送りすることになった。吉村亨教授と山本幹夫教授のお二人である。本学は2015年度から新たな飛躍を果たそうという時であるので、お二人の先生には、さらにお力を貸して頂きたかったと思う。

吉村亨先生は1983年に京都文化短期大学文化学科に着任され、1999年に京都学園大学に人間文化学部が作られた時に教授としておいでになった。先生は日本中世史がご専門で、特に茶の文化史を研究してこられた。ご担当科目は日本史概説や日本文化史などであるが、近年はフィールドワークで京都の寺社を学ぶ科目も担当しておられる。本学における日本史の数少ない専門家として大きな貢献があった。大学の役職としては教務部長を1期お務めになった。学部では教務主事を担当され、委員としては大学院委員会などの委員を歴任された。また、本学会の運営委員長も数回務めておられる。

山本幹夫先生は1983年に京都文化短期大学経営学科においでになり、1999年に京都学園大学に人間文化学部が作られた時に助教授として着任され、その後教授となられた。先生は経済学がご専門で、本学部においては入門的な経済学の授業を担当された。経済問題に関心が向きにくい本学部の学生にとって極めて重要な科目であったと思う。また、近年は、大学が導入したキャリアプログラムの科目も担当された。今までになかった科目であるため課題が多いが、先生のご尽力によって授業を続けてきた。学部の役職としては2年間学生主事をお務めになったほか、キャリアサポート委員などを歴任された。

今、お二人の先生をお送りしなければならないことは何よりも残念なこ

とであるが、これまでの先生方のご尽力にお礼を申し上げ、今後のますますのご健勝をお祈りいたします。